



日本は何色ですか？



国籍	ベトナム
職種	電子機器組立て
実習実施者	株式会社シーエス工業
監理団体	地域環境福祉事業協同組合

グエン ティ マイ
NGUYEN THI MAI

最近、SNS上で「日本は何色ですか？」という問いが、在日ベトナム人の間で話題になっています。「ピンク」と答える人もいれば、「黒」と語る人もいます。同じ国に暮らしていても、見える色は人それぞれです。この問いは、日本での生活に対する一人ひとりの感じ方を表しているかもしれません。

まず、「日本はピンク色」と感じる人たちがいます。日本は経済的に発展しており、治安も良く、公共サービスも充実しています。そういった安定した環境の中で生活することは多くの発展途上国出身の人々にとって魅力的に映ります。特に、以前は円高で、働くことでベトナムの家族に仕送りし、生活を支えることができました。私の友人の中にも、日本に来てから貯金を増やし、家族の家を建て替えたり、弟や妹の学費を支払ったりした人がいます。努力すれば結果が出る、そんな環境に希望を感じ「日本はピンク色だ」と語る気持ちもよく分かります。

しかしその一方で、「日本は黒い」と感じる人もいます。なぜなら、実際に日本で生活してみると、理想と現実のギャップに苦しむ場面が多くあるからです。例えば、日本に来るために

大きな借金をし、その返済に追われながら長時間働く日々。仕事のストレスや人間関係の悩み、さらに日本語がうまく話せないことによるコミュニケーションの壁、これらはすべて、外国人にとって大きなプレッシャーです。近年は円安が進み、物価も上昇し、以前のように貯金しやすい状況ではなくなっています。

また、日本での生活は孤独との戦いでもあります。文化や考え方の違いに戸惑い、何かに悩んでも気軽に相談できる相手がいないという状況は、精神的なストレスにつながります。私自身も、来日したばかりのころは、言葉も環境もすべてが不安で、「本当にこの選択は正しかったのだろうか」と悩んだこともあります。そういった経験から、「日本は黒色だ」と感じる人がいても不思議ではありません。

では、「日本は何色なのか？」という問いに対して、私はこう考えます。

その答えは、自分の心のあり方や経験によって変わるものです。確かに、日本での生活は楽なことばかりではありません。しかし、苦労の中にこそ、学びや成長があります。毎日、少しずつ前に進むことで、たとえ今は「黒」に見える景色も、やがて「ピンク」に変わるかもしれません。

これは私が自分で選んだ道です。だからこそ、後悔せず、今できることに全力を尽くしたいと思っています。人生の色は、他人が決めるものではなく、自分自身で描いていくものです。

毎日の一歩が、未来の自分を作ると信じています。小さな努力を積み重ねることで、どんな色でも自分の色に変えることができる。私はそう信じています。